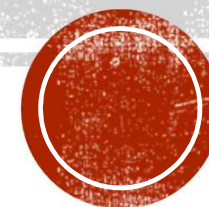


企画調査会
JA新ひたち野（トロロアオイ栽培） 田上進・敏枝

2021年12月20日



トロロアオイとは??

① 和紙に不可欠な原材料（ネリ）

- 出荷先は全国の和紙生産者
 - ・東北、関東、北陸、関西、九州などの全国に出荷。
- 文化財関係では主に以下の産地に出荷。
 - ・表具用手漉和紙（美栖紙）製作
奈良県）選定保存技術
 - ・本美濃紙保存会
岐阜県）重要無形文化財
 - ・越前生漉鳥の子紙保存会
福井県）重要無形文化財



画像：表具用手漉和紙（美栖紙）より

② トロロアオイ生産のサイクル

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
作業	耕起・整地 (田植えの後) 撒種 種の入手先はJA	間引き・中耕 本葉が5・6枚になっ たころ	芽掻き	摘芯・摘蕾		収穫・梱包 →JAへ	出荷 JAで出荷 トラックで輸送



炎天下での芽掻き・芯止めの作業
⇒この作業が**とてもきつい!**



収穫時に発覚するネコブセンチュウの
被害⇒**出荷できなくなってしまう**

★ポイント
病気がある!

トロロアオイには
 ・軟腐病
 ・ネコブセンチュウ (左写真)
 などの病気がある。
 他の作物と異なり、トロロアオイの病気に対する薬がない。

★ポイント

除草剤が使えない！

- ・除草剤を使うとトロロアオイ自体に影響が出てしまう。
- ・草を生やしたままだと栄養が草に取られてトロロアオイが成長しない。
- ・手作業での草むしりが必要。

★ポイント

野菜に比べて手間がかかりすぎる。

- ・トロロアオイは野菜などの他の栽培作物比べて芽掻きや芯止め、収穫などの手間（手が掛かる）作業が多い。
- ・収穫が1年に一度。
- ・使用用途が限定されている。



★ポイント

例) 1反(300坪、991,74m²、約10a)栽培した場合
ベテランと素人で収穫量に約4倍の開き

栽培が難しい!

- 収穫面積と生産量は比例しない。
- 40年前から比べると激減。

●年次別生産動向(抜粋)

年度	収穫面積 (ha)	生産量 (t)	10a 当たり 収穫 (kg)
昭和50年	74	977	1,320
平成11年	5	67	1,338
平成21年	3	37	1,233
平成31年 令和元年	3	10	362

『薬用作物及び和紙原料等に関する資料』

公益財団法人日本特産農産物協会、令和3年3月、pp60-61より抜粋 平成22年(要約版)、pp9



A家(栽培経験あり・栽培上手)
収穫量1800kg(120箱)



B家(はじめて栽培)
収穫量450kg(30箱)

③栽培農家と収穫量

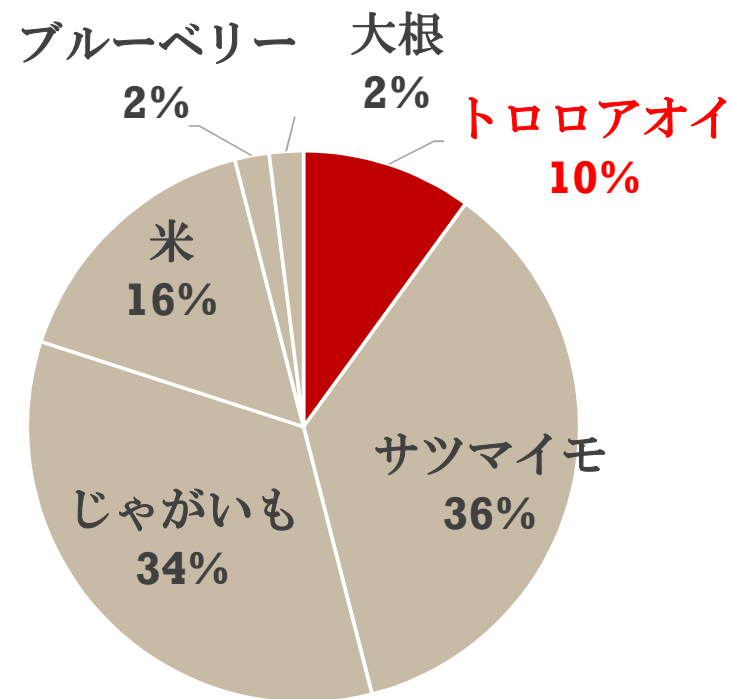
★ポイント

後継者育成が難しい！

課題 ●若い人が参入しにくい中でいかに品質保持しながら技術継承していくのか。

年度	収穫量 (kg)	箱数 (1箱15kg) 注文/出荷 (達成率)	栽培農家軒数
平成31/令和元年度	13,320	1143/888 (78%)	7軒
令和2年度	14,040	1058/936 (88%)	8軒
令和3年度	14,565	890/971 (109%)	7軒

●栽培収入の割合 (田上家)



出荷用の箱 (1箱15kg)

若手は60代。令和2年度には30代が入ったが、1年で辞めてしまった。

④課題解決に向けて

★ポイント

安定的な需要の維持・・・需要と供給のバランスが大切！

- 注引量よりも収穫量が多いときは廃棄⇒保存方法が確立されていない。
- トロロアオイは連作ができない。
⇒毎年作るかどうかを決めることが可能なため、作られなくなる可能性がある。

★ポイント

行政支援の拡大

- 令和2年度より文化庁の美術工芸品保存修理用具・原材料管理等業務支援事業を開始
(生産を支援する事業に7割の国庫補助)
 - ・備品として収穫の手助けとなるゴボウ掘り機（トロロアオイ用ヘアレンジ）の購入
 - ・肥料等の必要物資、出荷用の段ボールなどの購入
- 紙を漉く人、文化財を修理する人、文化財行政関係者の来訪
 - ・使ってくれている話を聞くと励みになる。
 - ・文化財としてこんなに重要なんだという栽培の意義を見出せる。

栽培面積に対して収穫量が安定しない。手間が他と比べて非常にかかる。
・・・辛い、きつい・・・
しかし、続けていこうという気持ちになる。

⇒ **安定的な需要の見直し**

一時的でなく継続的な支援があると助かる。